SICEの学生に「SICEな博士」のメッセージ

石　崎　孝　幸*

*東京工業大学 工学院 システム制御系　東京都目黒区大岡山 2–12–1
*Department of Systems and Control Engineering, School of Engineering, Tokyo Institute of Technology, 2–12–1 Ookayama, Meguro, Tokyo, Japan
*E-mail: ishizaki@sc.e.titech.ac.jp

キーワード：博士号 (Ph.D.)，教訓 (precept)，心得 (knowledge)，助言 (advice)，経験 (experience).
JL 0006/23/6206–0319 ©2023 SICE

1. 「SICE な博士」特集号

1.1　この特集号を企画したきっかけ

この特集号のねらいは，無批判に博士号の取得を啓発することにはありません．私は大学で研究教育に携わる立場にあるため，多くの学生に博士課程に挑戦してもらいたいという気持ちはもちろんあります．一方で，博士課程への進学が，現実的にはメリットばかりではないということも理解しています．ただ，ネットニュースなどで目にする情報は，私自身の経験や周囲のリアル博士たちの意見と比べると，いくぶんネガティブ側に偏りすぎているようにも感じます．このような世間のバイアスに歯がゆさを感じる中で，SICE に関係する学生や企業の多くの方々に，博士号を取得した実体験に基づいた「生の声」を届ける機会を作りたいと思い立ったことが，この特集号を企画したきっかけでした．

この特集号を企画するにあたって，私が重視した点は「執筆をお願いする先生方のバラエティの豊富さ」です．年齢，キャリア，キャラクターなど，私がこれまでにお世話になった先生方の中から，可能な限り幅の広い情報が集まるように執筆者を選りすぐったつもりです．また，博士号を取得して未来の研究者を目指す後輩や同輩に伝えたい教訓，心得，助言などを「肩肘張らないスタイルでご提供いただくこと」も重視しました．異なるキャリアを経た先生方が，それぞれの経験に基づいて思いを綴ってくださっています．お陰をもちまして，熱意に溢れた良質な記事が集まりました．

1.2　この特集号に寄稿いただいた先生方

読者の中には SICE 初心者の方もいらっしゃると思いますので，記事の概要を紹介する前に，ご寄稿いただいた先生方の経歴を手短にご紹介しておきます．

1) 藤田 政之先生（東京大学） SICE 会長や IEEE Control Systems Society の Vice President などの数々の要職を歴任されました．名実ともにシステム制御分野を代表する先生です．
2) 飯野 穣先生（早稲田大学） 社会人博士として 2015 年に博士号を取得されて，現在は大学で教鞭をとられています．企業に長年勤めた経験をおもちです．
3) 田中 崇資先生（テキサス大学オースティン校） 2012 年に米国で博士号を取得されました．現在は米国の大学で教鞭をとられています．
4) 岸田 昌子先生（国立情報学研究所） 2010 年に米国で博士号を取得された女性研究者です．現在は国立の研究所で活躍されています．
5) 河野 洋平先生（日立製作所） 2021 年に社会人博士として博士号を取得されました．現在は企業の研究者として活躍されています．
6) 木村 駿介先生（清水建設） 2018 年に博士号を取得された後，現在お勤めの企業に就職されました．修士課程から博士課程に進学するタイミングで大学を移った経験もおもちです．
7) 川口 貴弘先生（群馬大学） 修士課程修了後に勤められた企業を退職して，2017 年に博士号を取得されました．現在は大学で教鞭をとられています．

この特集号をお読みいただくことで，大学の先生だけでなく，企業に勤める先生，企業から大学に移った先生などのさまざまな視点から，博士号取得に関する貴重で有益な情報が得られると思います．

2. 各記事の概要

学生が博士課程への進学をためらう原因として

- 博士号の取得に必要となる論文執筆や研究発表に関する不安
- 博士号を取得した後の就職に関する不安
- 博士号を取得するために必要となる学費などの経済的な不安

などがあろうかと思います．この特集号では，これらの不安を和らげる一助となることを目指して，執筆者の先生方には

- 博士号の取得を目指すことを決断したときの思い
- 博士号を取得して得られた教訓
- 博士号を取得して企業や大学で研究を行う意義
- 博士号を取得する時期や取得した後のキャリアパスの設計指針

などについて，実体験を踏まえて解説していただくことを依頼しました．執筆者の先生方が企画意図の深意まで汲み取ってくださったため，博士課程進学の検討に参考になるであろうリアルな情報がたくさん集まりました．苦労話や個人の感想も一読に値すると思います．

以下に各記事の概要をまとめます．見出しの番号は，上述した先生方の略歴に付した番号に対応しています．

1) 『博士育て』 学生，教員，企業，学会と幅広い対象に向けて「社会で博士を育てる」という金言を授ける記事です．特に学生は，大学院における研究を通

じた教育や学びの意義を再認識する機会が得られると思います．博士号に関する歴史的経緯やSICEに期待する将来についても触れています．

2) 『社会人博士へのチャレンジ ―ハードルとベネフィット―』 ご自身の社会人博士課程における経験談に加えて，10名の社会人博士に実態を調査していただきました．集まった生の声やご助言は，社会人博士課程で奮闘している方にも，これから社会人博士を目指そうとする方にも勇気を与えてくれると思います．特に，最後の熱いメッセージは必見です．

3) 『アメリカでのアカデミック・キャリアパス』 アメリカでの博士号取得から大学教員のポスト獲得までの経験を踏まえて，留学や研究に関するさまざまな助言をいただきました．語学力，金銭面，研究などに関する多くの方が抱えるであろう不安を解消するティップスが散りばめられていると思います．

4) 『やりたいことをやるための3つの不安解消法』 金銭，研究，就職のそれぞれの側面に関して，ご自身の経験を踏まえた不安の解消法を教えていただきました．後半のQ&Aでは，国際会議に参加することの楽しさや女性研究者として感じること，海外で博士号取得を目指すことなどについても触れています．

5) 『サラリーマンが博士号を取る意義はあるか？ ―研究開発と社会人博士の経験から―』 ご自身の博士課程の体験談や博士号取得後の所感を生き生きと伝える記事です．特に，厚生労働省が提唱する「ポータブルスキル」に博士課程のプロセスを紐付けた解説は，博士課程の意義や魅力を伝える非常に良い切り口だと思います．

6) 『制御理論専攻の学生生活と建設会社への入社』 随所にウィットに富んだ描写や体験談が交えられていて，博士課程進学に悩む学生や博士課程で揉まれている学生が，親近感をもって読むことができる記事だと思います．経済面での助言や就職活動における体験談も多くの学生に参考になるはずです．

7) 『回り道のすゝめ ―会社を辞めて博士を取得した経験から―』 一見すると無駄にも思える回り道で「探索」することによって，自分の想像を超える多くの経験が得られるという体験談を綴る記事です．博士の道に飛び込む勇気を与えてくれると思います．

3. さいごに

3.1 私のエピソード

蛇足かもしれませんが，私自身のエピソードも参考までに記しておきます．恥ずかしながら，私は学部4年で研究室に配属されるまで「博士課程」そのものを全く理解していませんでした．当時は，周囲のほとんどが修士課程まで進学するので，漠然とそれに倣って定型な理系学生の生活を送ることしか想像していませんでした．

そんな私が博士課程に進学することになったきっかけは，これまた恥ずかしながら「くじ引きで負けたこと」でした（!）．サークルの先輩に誘われて，とある企業の大学推薦を希望していたのですが，希望者が多数のためくじ引きとなり，私は見事に外れました．そのとき「運命」を悟って博士課程に進学することを決めました．

とはいうものの，博士課程にも興味はもっていました．大学院では時間を忘れるほど研究に熱中していましたし，純粋に研究は楽しいと感じていました．同時に，当時指導してくださった先生達に進学を勧められたこともあり，正直なところ進学と就職でかなり迷っていました．その最中でくじ引きに外れたことで，覚悟を決めて博士課程に進学することができました．今は進学を勧めていただいた先生達に感謝しています．

そんな私でも博士課程に進学したことに後悔は全く感じていません．研究に向き合い研究に没頭した本当に充実した時間でした．先生達の指導のおかげで，論文執筆やプレゼンなど幅広いスキルを磨くこともできました．研究者として活動する今の私は，博士課程を通じて培った経験にまちがいなく支えられています．博士課程は専門力を高める場所だといわれますが，私はむしろ「真の基礎教養を鍛える場所」であったと感じます．

3.2 メッセージ

私がこれまでに出会ってきた博士達から，博士課程に進学したことを後悔していると聞いたことは，正直一度もありません．もちろん，話をしている対象が無事に博士を取得した人達であることが一因であるとも思います．ただ，世間で目にする悲観的な情報とリアルな博士達の所感には，少なからずギャップがあると感じます．SICEが幅広い学問領域を横断した「工学のリベラルアーツ」とも言える集まりであることも，博士取得後に露頭に迷うことのないポジティブな側面かもしれません．ここに集まったNICEでSICEな博士のメッセージが，悩める学生の背中を押す一助となることを願います．

謝辞 あらためて熱意ある原稿をご寄稿くださった先生方に感謝の意を表します．

（2023年5月8日受付）

［著 者 紹 介］

石崎孝幸（いしざきたかゆき）君（正会員）

2012年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了．2012年11月同研究科助教．2020年4月工学院システム制御系准教授．2011年日本学術振興会特別研究員(DC)，2012年同研究員(PD)兼スウェーデン王立工科大学客員研究員．博士（工学）．数理学の立場からスマートグリッドの開発や原子時計ネットワークによる分散時系生成に関する研究に従事．エネルギーインフラ強靭化への貢献により令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞．その他，システム制御分野の主要な国際論文賞であるIEEE Control Systems Magazine Outstanding Paper Award，当該分野を代表する若手研究者を顕彰する計測自動制御学会制御部門パイオニア賞などを受賞．